

大学**アーカイヴズ**

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2008. 3. 31 No.38

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

目 次

・椿田卓士「上田祥士氏講演「成蹊学園の創立者・中村春二」を聴いて」	1
・門平浩司「市村麻衣氏講演「成蹊学園史料館～設立の経緯と史料の収集～」を聴いて」	3
・松原太郎「全国研究会（テーマ「創立期大学史資料の特色」）に参加して」	4
・中西祐悟「明治学院“2大スター”との交感」	6
・青柳小百合「大学史資料の保存と活用—調査から対策まで—」	7
・全国大学史資料協議会2007年度総会議事録・記念講演記録（抄）	9
・全国大学史資料協議会2007年度役員会議事録（抄）	11
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録（抄）	12
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録（抄）	14
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	20

2007年10月11日～13日 全国大学史資料協議会2007年度総会ならびに全国研究会・記念講演

上田 祥士氏講演

「成蹊学園の創立者・中村春二」を聴いて

東海大学学園史資料センター 椿田 卓士

2007年度の全国大学史資料協議会総会・全国研究会の記念講演として、成蹊学園100年史編集委員会・成蹊学園校医の上田祥士氏から、「成蹊学園の創立者・中村春二」と題する、創立者の事蹟および成蹊学園創立過程についての講演がなされた。

創立者の事蹟を追究していくことは、大学史の構築にあたって必要不可欠であることはいうまでもない。上田氏の講演は、大学アーカイブズにおける創立期資料の意味を改めて考える上で、まことに意義深いものであった。

会場校である成蹊学園の創立者中村春二是、1877（明治10）年東京市に生まれる。尋常中学校時代に、終生の友そして後の学園協力者となる岩崎小弥太・今村繁三と出会う。やがて東京帝国大学を卒業した中村は、有能であるにも拘わらず貧困を理由に勉学の途を閉ざされる学生を憂慮し、1906（明治39）年自宅に私塾を開設、翌年「成蹊園」と名付けて実践的な教育活動を開始する。1911（明治44）年の成蹊実務学校設立認可を嚆矢として、以後五つの学校を開設し、1919（大正8）年自





講演する上田祥士氏

ら学園長として財団法人成蹊学園設立に至る。

こうした経緯の中、中村は教育機会の門戸拡大という強い信念のもと、初等教育から高等教育までの一貫教育体制の樹立に多大な情熱を注いだ。ただ単なる知識の授与だけではなく、生徒の個性を尊重しつつその人格を高めることを主眼とするその教育方針は、今日もなお「個性を持った自立的な人間の創造」の実現を目指す、成蹊学園の基本的理念となっている。

講演では、中村が目指した従来の画一的な教育打破、教師と生徒たちのよりよき関係を形成しつつ、生徒の個性を尊重した自主的な教育のあり方が提示された。その具体的な取り組みとして、正座に座禅の精神性を加えて精神集中を促す「凝念法」、精神力の偉大さを暗誦させる「心力歌」、そして登山や水泳等の体験を通じた「鍛錬主義教育」、この三つを柱として、成蹊学園独自の教育方法が実践されていった、との説明があった。

「中村は、成蹊学園を大きな学校にするために努力したのではなく、世の中を良くするために成蹊学園を創った。」－上田氏によるこの言葉は、学園創立者である中村の設立意図を最も端的に言い表していると言えよう。

上田氏の講演は、創立者中村春二の一連の教育活動を、事蹟の単なる羅列ではなく、豊富な資料や写真、参考文献の紹介等をふまえた、簡潔明瞭なものであった。なお、本講演に続いての市村麻衣氏の講演「成蹊学園史料

館～設立の経緯と史料の収集～」においても報告がなされたように、成蹊学園ではこれら創立者に関する個人資料が、現在の同史料館に残る資料群でも重要な位置を占めていることである。

今大会の研究テーマ「創立期大学史資料の特色」という観点でみれば、大学アーカイブズにとって学園の創設者および関係者に関する資料は、その最も根幹となる性格の資料である。昨今の大学をめぐる社会状況を顧みるに、いずれの大学も、自校の歴史や建学の理念は見直されなければならない状況であることは否めない。単なる懐古主義に陥ることなく自校の原点を再認識することの意義は、従来に増して高まっているように思われる。

東海大学においては、2008年4月より北海道東海大学・九州東海大学を合わせた、三大学統合というかつて経験したことのない未曾有の改革を控えている。現在、各大学および学園内の各部署は、統合による組織改編等体制の大きな見直しを図っている。この機会は、換言すれば大学創立の理念や精神を再び見つめ直す、重要な節目を迎えているともいえる。

統合されることにより他の二大学が持つ創立理念をどのように再認識していくか、統合された新たな大学の方向性をどのように見出していくか。こうした過程で、建学の精神といった大学の原点をまた新たな視点で捉え直す必要がある。その意味で、東海大学は大きな分岐点に立たされているといえるのであり、また同時にアーカイブズとしての学園史資料センターの果たすべき役割の重さを改めて痛感した。

本講演は、自校の出発点とは何か、その目指した教育のあり方を如何に継承していくか。それぞれの大学のもつ建学理念の重要性やその認識のあり方など、今後の課題も含めてさまざまなことを考えさせてくれる、非常に有意義な機会であった。報告者ははじめ、関係各位に改めて感謝申し上げます。

全国大学史資料協議会2007年度総会ならびに全国研究会・記念講演

市村 麻衣氏講演

「成蹊学園史料館～設立の経緯と史料の収集～」を聴いて

國學院大學学術メディアセンター事務部
研究開発推進機構事務課校史資料担当 門平 浩司

成蹊学園を訪れたのは、大学受験時以来、実に20年ぶりであった。当時の受験案内から「成蹊」という学園名の由来は知っており、成蹊学園にはある種の思慕を覚えていたのである。

その成蹊学園が全国大学史資料協議会2007年度総会の会場校と聞いた時から、私は秘かな期待をいだいていた。初日の開催前に、たまたま正門前の蕎麦屋に立ち寄った。壁に掲げられた一枚の色紙「桃李不言下自成蹊」に、現代に息づいている建学の精神を垣間見る思いがした。

私の成蹊学園に対する漠然としていた共感は、総会後の記念講演①「成蹊学園の創立者・中村春二」を聴くや否や、独自の教育理念と努力の具体的成果で満たされることとなった。

つづく市村氏の記念講演②「成蹊学園史料館～設立の経緯と史料の収集～」では、成蹊学園史料館は成蹊学園の先見性と学園史の独自性により、必然的に創生された成熟した果実、すなわち現代社会における桃李そのものであると言っても過言ではない、と実感するに至った。

はじめに市村氏は、1.『成蹊学園の歴史と成蹊学園史料館所蔵史(資)料の特色』で、成蹊学園の発展史を「創立期」「池袋時代」「吉祥寺移転後」に区分して概観。ついで史(資)料の特色は、「創立者に関する個人史料」「学園の教育に関する歴史史料」に二分されることとして、それぞれの多種多様な史(資)料を紹介した。創立者中村春二氏個人の偉業と関係者の協力が、今日の学園発展の礎となっていることから、前者史(資)料のウェイト



講演する市村麻衣氏

が重いのがよく理解できる。

2.『成蹊学園史料館設立の経緯と史(資)料整理の変遷』①～⑥は、成蹊学園が学園の歴史と史(資)料に対する重要性を早くから認識し、計画的にたゆまぬ努力を惜しまなかつたことを如実に物語っている。

必ずしも順調とは言えない時期もあったからこそ、この学園史料館設立経緯は、大学史関係者にとって学ぶべきことが多大であり、さらに大学に関わる全教職員が、自校史や関係史(資)料の重要性を認識する契機とすべき好例と言えよう。

注目すべきは、戦後まもない昭和20年11月に「成蹊教育史料編纂会」を発足させ、建学の理念を再確認し、学園の復興と同時に関係史(資)料の収集と研究、沿革史編纂に着手していることである。32年には「成蹊学園教育研究所」を開設して年史等の刊行も意図し、40年に「学園史刊行会」を発足させ、学園として史(資)料の収集・整理を推進して『成

蹊学園60年史』を刊行。58年には「中村春二先生記念室」を開設し、史（資）料の分類・整理をさらに推し進めて展示も実施している。

このような積年の努力が、本格的に史（資）料を保存・収集・公開する機関として、63年の「成蹊学園史料館」開館へと結実している。つまり成蹊学園が学園の発展と連動する形で、早い時期から組織的計画的に、関係史（資）料に関する諸活動を積み重ねてきたことは、賞賛に値し大いに敬意を表したい。

⑦成蹊学園史料館設立の項では、先ず鉄筋コンクリート二階建ての独立した建物構成の紹介。学園内の立地にも恵まれた史料館は、創立者中村春二氏の遺徳と建学の精神、独自の教育活動の発信センターと言えよう。スタッフ構成は史料館運営委員会等のもと、事務職員の学芸員2名と業務委託の非常勤5名。史（資）料は細かな分類がなされ、平成6年に『成蹊学園史（資）料一覧』を刊行している。この基盤整備の充実にも、成蹊学園の組織としての認識の高さが反映されていると感じる。

⑧現在の項では、さらに広範で細分化した積極的な収集活動が窺える。特に史料館規則

による学内定期刊行物（約500種）を網羅した収集・保管体制は興味深い。多岐に渡る学園史（資）料は登録番号とデータで管理していたが、スタッフが少なく異動もあるため、平成14年度から分類をやめてアーカイブ・ボックス収納に変更している。アーキビストの確保と次代への継承は、程度の差こそあれ各大学共通の問題と言える。また学園の年間スケジュールに合わせた各種展示企画は、学園の精神的真髓とも言える機能を發揮している。

3.『課題』では、アーカイブズとしての機能の充実のために、①史料の把握、②史料の収集、③史料の管理、を挙げている。史料データの一本化、史料の選定、学内各部署間の重複史料の明確化と軽量化、重要史料の移管など、具体的対策によるさらなる発展の方向性を強く感じた。

2012（平成24）年に創立100周年を迎える成蹊学園。この講演を聴き史料館を見学することによって、創立者中村春二氏の教育理念が学園に脈々と受け継がれ、人類普遍の精神として現代に息づいていると深く感銘した。

全国大学史資料協議会2007年度全国研究会

全国研究会（テーマ「創立期大学史資料の特色」）に参加して

日本大学資料館設置準備室 松原 太郎

平成19年10月12日、成蹊学園本館大講堂において全国大学史資料協議会全国研究会が開催された。

今回のテーマである創立期大学史資料は、大学史を紐解く上で、ひいては大学の建学理念・目的を考察する上で、各大学に共通する重要な資料群である。その一方で創立期の資料ほど各大学の特徴が顕著に現れ、多様性のある資料群もないであろう。

今回は、参加大学共通の問題であり、かつ

各大学の独自性が発揮される資料群がテーマとなった。その意味では、どの大学が報告しても興味深い報告となつたであろうが、運営に尽力された幹事校の周到な準備のもと、創立期資料にそれぞれ異なる特色をもつ三大学が報告することとなつた。

まず、国立大学の創立期の事例として北海道大学の報告があり、次に創立関係者が外国人である事例として関西学院大学の報告、最後に創立期の事例ではないが、廃学から再興



総括討論する報告者と参加者

した事例として皇學館大學の報告を聞いた。以下に報告の内容を簡略に紹介する。

北海道大学大学文書館の山本美穂子氏は、「札幌農学校簿書とその周辺」と題して、北海道大学の草創期の資料「札幌農学校簿書」を学業史の側面から活用している事例について報告された。これまで制度史の視点で活用されてきた創立期資料が、受講ノートなどの個人資料の受贈により、学業史という別の価値を見出すことになったという。このような創立期資料の新たな活用法は、大学史資料を専門として扱う大学文書館があればこそ実現できたと考えられる。北海道大学大学文書館における今後の学業史研究のさらなる深化に期待したい。

関西学院学院史編纂室の池田裕子氏は、「関西学院創立初期の宣教師関係資料—北米での調査・資料収集からその活用まで」と題して、北米における創立初期資料の収集活動や創立関係者の子孫調査などの経験をもとに報告された。遠隔地での創立期関係資料調査は、限られた時間・予算の中で実施されるため、アーカイブの調査というよりも、むしろ友好関係の構築に力点を置いているという。このほか、池田氏の報告には、海外調査にとどまらず、日本国内における遠方地の調査においても有益な情報が多く含まれており、今

後の外部資料調査の参考となった。

皇學館館史編纂室の大平和典氏は、創立期ではなく「皇學館大學の再興とその資料」と題し、昭和21年に廃学となり、昭和37年に再興されるまでの経過とその資料について報告された。廃学時には、図書や資料は他大学等へ移管され、なかには廃棄された資料も少なくなかったという。大学再興にあたり、移管されていた図書・資料が多数返還・譲渡されたとはいえ、資料の散逸は、大学史編纂事業を推し進めていく上で困難も多いことであろう。しかし、一方で、皇學館大學の苦悩に満ちた再興という経験は、多くの関係者が回想や記録を残すこととなり、再興期資料という他大学にない独自の資料群を形成するにいたった。皇學館大學における再興期の資料は、同大学の歴史を考える上で、創立期資料と同様に重要な資料群であることが理解できた。

報告後の総括討論の前に、まず、各報告者への個別的な質問が出された。創立期資料という多様性のある資料がテーマであったため、報告者への個別質問が多くなり、総括的な内容については議論する時間が少なくなってしまった。しかし、創立期の時期設定と創立期資料の特色について数大学から発言があり、あらためて各大学によって創立期の時期設定と創立期資料の内容が千差万別であることが確認された。なお、最後に次年度以降も大学史資料の基本的性格にかかるテーマを設定して今年度の課題を引き継ぎたいとの総括があり、全国研究会が終了した。

全国大学史資料協議会に参加する全大学共通の研究テーマを設定することは容易なことではないが、その数少ないテーマのひとつが、今回の研究会で取り上げられた創立期資料である。今後、大学史展やその他の企画でテーマとして取り上げられることと考えられる。そのためにも、各大学で多様な創立期資料の中から、いかに共通点や基本的性格を見出していくかが、今後の課題となるであろう。

2007年12月13日(木) 研究会

明治学院“2大スター”との交感

東海大学学園史資料センター 中西 祐悟

ヘボンと藤村。もうそれだけでノック・アウトだ。強烈なワン・ツー・パンチはゴングと一緒に繰り出された。正面からまともに浴びたのだから、この身体がマットに仰向けに倒れていくのに、数秒とかからなかった。

全国大学史資料協議会東日本部会の第58回研究会は2007年12月13日（木）、東京都港区高輪にある明治学院大学白金キャンパスで行われた。「明治学院の歴史・明治学院歴史資料館の沿革と活動」をテーマに、同館の原豊氏が講演。明治学院の、まもなく150年に至らんとする歴史、そして歴史資料館の変遷が語られ、会場に集まった各大学の歴史・資料編纂に携わる面々からは敬意と賛辞、驚嘆と共感が寄せられた。

私としては、羨望の思いに駆られた、というのが率直な感想だ。ヘボンといえば、ローマ字を習った者なら誰もが出会う名前である。島崎藤村といえば、読んだことはなくても、『破戒』『夜明け前』といった代表作のタイトルくらいは聞いたことがある。戦前から国民歌謡として歌い継がれる「椰子の実」の作詞者といわれれば、モノクロームの肖像にもぐっと親近感がわくというものだ。

そのヘボンが創設者で、その藤村が卒業生かつ校歌の作詞者だと聞いたら、もう驚き、羨みを越えて、ただ呆れるばかりだ。明治学院が擁する“二枚看板”を効果的に用いれば、その歴史は誰もが興味を抱き、誰にも身近に感じられることだろう。事実、歴史資料館ではこれまで、二人を軸に様々なテーマで活動を展開してきたという。しかし偉大有名な二大スターは、両刃の剣ともなりうる。いかに大物といえども頼りすぎれば疲弊してしま



報告する原 豊氏

うし、逆に「ヘボンと藤村だけ？」と誤解されるのが、一番怖い。

明治学院はもちろん、そのような愚は犯さない。輝かしい初期の歴史にあぐらをかくことなく、約150年にわたって自らを磨き続けてきた。近年のクリーン・ヒットといえば、今をときめくクリエイティブ・ディレクター、佐藤可士和氏を起用してのブランド戦略が挙げられる。あの洗練されたロゴマーク、鮮やかなイエローを基調としたイメージ群は、周囲に明治学院の存在を爽やかに訴求し、関係者の胸に誇りを抱かせている。それら明治学院の営みを記録し、証言していくのが、ほかでもない歴史資料館の使命であろう。

明治学院が、周辺地域に溶け込み、受け入れられている様もまた、見習うべき点の一つだ。白金キャンパスでは、ひとりわ存在感を放つ莊厳なチャペルをはじめ、歴史資料館の入った記念館など、伝統的な建造物と、近代的な建築物とが混在し、しかし見事な一体感を醸し出している。それは周辺地域——江戸情緒が薫る古刹の佇まいと、高層マンション、オフィスビルの建設が相次ぎ、シロガネーゼと呼ばれるハイセンスな女性、そのパートナー

らが暮らす街——が織り成すハーモニーと、相似形を示してもいる。

散会後、正面を走る桜田通りを北へと歩いた。清正公前の交差点を右に折れ、天神坂の急勾配を登り切ると、東海大学のキャンパスの一つ、高輪校舎に行き当たる。徒歩15分とかからないその道ながら、胸に去來したのは、過去と未来、大学と地域、大学と大学、様々な点と点が交わる“結びつき”だった。

この大学の歴史は、周囲にどのように映っているのか。どのように語りかけていくべきなのか。他大学の関係者もきっと、同じように自問し、仲間と論議しながら、それぞれに価値ある歴史と未来を創造すべく、日々の業務に励んでいるに違いない。大学の数だけ歴史がある。今回もまた、他大学に学び、交わり、自らの姿と向き合う機会を与えてくれた、大変有意義な研究会だった。

2008年1月24日(木) 研究会

大学史資料の保存と活用—調査から対策まで—

株式会社ニチマイ 青柳小百合

今回の研究会は、本年度の部会総会の中であがった「資料の保存や修復に関する技術的な問題を取り上げて欲しい」という要望に対して企画されたものである。

統一テーマを、『大学史資料の保存と活用—調査から対策まで』と掲げ、4名の発表者が各々の専門分野ごとに、現在の資料保存に対する考え方や具体的な方法などを発表する形式をとり、全体を出来るだけシンプルにまとめる様に心掛けた。

まず始めに、木部徹氏 ((有) 資料保存器材) より、「資料群 (コレクション) としての状態調査から対策へ」と題して、資料保存に対する全体の考え方、取り組み方に対する発表が行われた。

この中で木部氏は、資料1点ごとに対処対応していくのではなく、まずコレクション全体を把握した上で、全体的な対策を講じていく事が必要である事を説明され、予防的対策 (プリベンティヴ・コンサベーション) の必要性を説いた。

その後、コレクション全体を把握するための具体的手段のひとつとして、『400点サンプリング法』について説明が行われた。資料保



報告する青柳小百合氏

存に対する考え方として、『防ぐ・取り替える・治す』という3段階があるという事などが述べられた。またこうして行われた調査結果に対して『防ぐ・取り替える・治す』という三つの方策を、段階的・選択的に、場合によっては組み合わせて実行すべきであることを述べた。

次に、神谷修治氏 (特種紙商事 (株)) より、「紙資料の劣化と中性紙、保存箱」の発表があった。

「紙資料がなぜ劣化するのか」という本質的な要因や「酸性紙とは」「中性紙とは」などの基本的な話がなされた。“資料保護のためにには温度よりも相対湿度の管理が大切であ

る”など、具体例も示された。

劣化対策では、資料の劣化を『防ぐ』手段として、すぐにでも実行可能な中性紙保存箱の導入やその有効性について述べられた。

次に、岡田泰吉氏（（株）コスモスインターナショナル）より、「写真資料の保存方法、活用方法」と題し発表が行われた。

中心的なテーマは、写真フィルム支持体（ベース）種別ごとの劣化状況の説明と、それぞれの対処方法についてであった。劣化の要因として、①写真フィルムの性質によるもの②写真フィルムの現像処理によるもの③保存環境条件によるもの、の3つの「トライアングル」が説明され、中でも、これから先に我々の立場でも対策を取る事が可能な「③保存環境条件」について早急に対応する事の必要性が説かれた。

保存のために推奨される保存環境の条件について独自に提唱された「事務室レベル」の項目は、写真美術館や資料室のレベルよりも、より身近に具体的に実現出来る内容であり参考になった事と思われる。

続いて、青柳（（株）ニチマイ）より、「紙資料の媒体変換、マイクロフィルム化・デジタル化」と題しての発表を行った。

始めに、紙資料を媒体変換する手段としての「マイクロフィルム化」と「デジタル化（データ化）」という選択肢について、それぞれの作業の具体的な内容の説明を行い、併せて特徴や利点について述べた。

続いて、「マイクロフィルムの劣化」「デジタルメディア（光ディスク）の劣化」と題して、それぞれの媒体の劣化要因や、長期間保管するために適切とされる温湿度条件など、具体的な環境条件についての説明を行った。

中でも、デジタル媒体の中では最も寿命が長いとされている光ディスクの劣化についての劣化現象の具体的事例、また、データ消失の予防としての定期的なエラーレートの計測を行う事の重要性について説いた部分に対し



参加者の質問に答える報告者

ては、参加者の関心の高い事が伺われた。

最後に、再び木部氏より、「紙媒体記録資料の修復技術」と題しての発表が行われた。

始めに具体的な修復項目の説明が行われた。「洗浄処置」「脱酸性化処置」「リーフキャスティング」「抗酸化処置」「エンキャプシレーション」のそれぞれについて、写真入りのパンフレットを用いての詳細な解説が為された。その後、簿冊資料や新聞資料など具体的な処置事例について、一連の過程を記録した写真イメージを確認しながらの紹介が行われた。

全員の発表後に質疑応答があった。「大量脱酸のメリットとリスク」「写真に安全なO P Pフィルムの選び方」「映画フィルム（T A Cベース）の保存方法」など、具体的な質問が多数寄せられた。今回発表の企業が加盟している情報保存研究会（J H K）は、ウェブ上に「質問箱」という、ユーザーが匿名で相談できるコーナーを設けており、是非利用して頂きたいとの紹介もあった。

全体の研究会終了後にも個別に相談する熱心な姿がみられ、印象的であった。

各大学は、資料保存に関するたくさんの問題を抱えていることがわかり、実践的なテーマの話は有意義であったと思う。このような研究会を一回だけで終わらせるのではなく、定期的に継続されることを希望し、概要報告としたい。

**全国大学史資料協議会2007年度
総会議事録・記念講演記録（抄）**

名 称 全国大学史資料協議会2007年度総会
日 時 2007年10月11日（木）
会 場 成蹊学園本館大講堂、成蹊学園史料館
出 席 <東日本部会>
愛知大学 青山学院 神奈川大学
慶應義塾 恵泉女子学園 皇學館
國學院大學 芝浦工業大学
上智大学 成蹊学園 創価大学
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京経済大学 東京女子
医科大学 東京農業大学 東北学院
東洋英和女学院 東洋大学
東洋大学校友会 南山大学
日本女子大学 日本体育大学
日本大学 北海道大学 武藏学園
武藏野美術大学 明治大学
東田 全義（名誉会員）
秋山 俱子（元日本女子大学）
西山 伸（京都大学）
中村 青志（東京経済大学）
吉川 隆博（個人会員）
オブザーバー：
平井 孝典（小樽商科大学）
<西日本部会>
追手門学院大学 大阪大学
大谷大学 関西大学 関西学院
甲南大学 神戸女学院
西南学院大学 同志社大学
広島大学 桃山学院 龍谷大学
橋本 弘之（元立命館百年史編纂室）
原 登久雄（元桃山学院年史委員会）
*東日本部会分
<機関>30校（47名）
<個人他>6名 <合計>53名

<情報交換会>44名
*西日本部会分
<機関>12校（17名）
<個人他>2名 <合計>19名
<情報交換会>19名
開 会 司会
中央大学
松崎 彰氏（東日本部会事務局）
桃山学院
西口 忠氏（西日本部会庶務校）
*開会に先立ち、司会より総会成立の報告があった。
開会挨拶 関西大学
熊 博毅氏
(全国大学史資料協議会会长校)
議長選出 議長
國學院大學 益井 邦夫氏
副議長
大谷大学 小野 賢明氏
議 題 1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について（承認事項）
東日本部会事務局（中央大学松崎彰氏）より、全国役員会での審議経過が報告され、次年度の両部会共同事業として、研究叢書第9号刊行の件（東日本部会編集担当）が提案された後、全会一致で承認された。
次に、「協議会ホームページ」の今年度開設の件が提起され、現在作成中のホームページのイメージを公開しつつ、会員各位の意見・希望を反映させたホームページにしたいとの趣旨が説明された。また、ホームページの維持費について、今年度は各部会の会員校数比割で分担し、以降は両部会の折半とする方針が説明された後、

全会一致で承認された。

2. 2007年度東西両部会事業計画報告（報告事項）

東日本部会事務局（中央大学松崎彰氏）・西日本部会庶務校（桃山学院西口忠氏）から、配布資料中の各部会事業計画書にもとづいて本年度事業の概要が報告され、全会一致で了承された。

3. その他

東日本部会事務局（中央大学松崎彰氏）より、現在、『研究叢書』の投稿規定が両部会にて検討されており、規定の概要がまとまり次第、改めて総会に提案したいとの報告があった。

記念講演 15時00分～16時50分（公開講演）

会場校挨拶 成蹊学園史料館館長

橋本 竹夫氏

（成蹊学園専務理事）

講 演 (1)講 師 上田 祥士氏

（成蹊学園100年史編集委員会、成蹊学園校医）

演 題 「成蹊学園の創立者・中村春二」

概 要 上田氏の講演は、成蹊学園の創立者である中村春二の一生を、生いたちから学校の開設・展開、そして逝去まで、特徴的な教育方法・建学精神に触れながらたどったものであった。国学者中村秋香の次男として生まれた中村春二是、尋常中学科在学中に生涯の友人であり協力者であった岩崎小弥太、今村繁三と出会う。中村は、東京帝国大学在学時にはすでに教壇に立っており、日露戦争後の時代状況の中で、教育機会の不平等に疑問を覚え、学校設立を決意することになる。1912年の成蹊実務学

校を皮切りに5つの学校を設立した中村は、学校教育のみならず対社会的運動として成蹊教育会運動にも積極的に取り組み、各地で講演・講習等を行った。やがて、学制を改革し、初等から高等までの一貫教育への転換をはかったが、その後間もなく1924年に逝去した。中村は、画一的教育の打破、生徒の個性を重視した自主的・主体的な人間教育を目指し、具体的方法は、静坐をして雑念を取り払い学習に適した精神状態を導き出す「凝念法」、心の働きの靈妙偉大さを歌った「心力歌」、体力・心の力を鍛える「鍛錬主義」に代表される独自のものであった。こうした教育によって、中村は個性を持った自立的な人間の創造を目指したのである。（西山 伸）

講 演 (2)講 師 市村 麻衣氏

（成蹊学園史料館）

演 題 「成蹊学園史料館

～設立の経緯と史料の収集～」

概 要 市村氏の講演は、成蹊学園と史料館の過去と現在とを踏まえつつ、今後の史料館が目指すべき方向性についても言及するものであった。

講演は「1. 成蹊学園の歴史と成蹊学園史料館収蔵史（資）料の特色」「2. 成蹊学園史料館設立の経緯と史（資）料整理の変遷」「3. 課題」の三部構成からなり、それぞれにわたり詳細な報告がなされた。

第一部で市村氏は、先立って行われた上田祥士氏の講演を受けつつ成蹊学園の歴史について簡単に触れた上で、同学園の歴史的な営みを通して生産された諸史（資）料群の内容

について紹介を行った。成蹊学園では創立者に関する個人資料が相当のウェイトを占める。しかし一方で、学園の教育に関する歴史資料、つまり設立された9校および法人の史料も相当量残存していることが報告された。

第二部では、1945年の「成蹊教育史料編纂会」発足にはじまる、数次にわたる年史編纂計画と各段階で収集された史料群について紹介があり、これら年史編纂等の蓄積が1988年の成蹊学園史料館の開館につながったことが指摘された。さらに現在の史料館の活動等について報告がなされ、施設概要・2007年度スタッフ・史料の収集方法・収集基準・史料管理等が紹介された。

最後に市村氏は史料館におけるアーカイブズ機能の充実を課題として掲げ、①史料の把握、②史料の収集、③史料の管理体制の構築がこれから史料館にとって重要であると指摘し、講演を締めくくった。

(村松 玄太)

なお、両講演の詳細については、『研究叢書』第9号収録予定の両氏論考を参照されたい。

見学会 講演会終了後、成蹊学園史料館を見学した。案内・説明については、露崎幸氏（成蹊学園史料館）、桜井佳乃氏・保延有美氏・水野京子氏・山川晴美氏・若林美佐知氏（共にDNP年史センター）が担当した。

情報交換会 同日17時30分～19時

見学会終了後、成蹊学園大学10号館12階ホールにおいて、情報交換会を開催した。司会進行は西口忠氏

（桃山学院）、乾杯の発声は東田全義氏（東日本部会名誉会員）がつとめた。会場では、会員校の現状報告や情報交換など、終始明るい雰囲気の中で親睦を深めた。閉会の辞は、橋本弘之氏（元立命館百年史編纂室）であった。

後 援 総会開催にあたり、株式会社DNP年史センターのご後援を頂戴した。

全国大学史資料協議会2007年度 役員会議事録（抄）

（第81回全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録）

日 時 2007年10月11日（木）
13時00分～13時30分

会 場 成蹊学園本館大講堂

出 席 （東日本部会）

神奈川大学（運営委員）

慶應義塾（副会長・会計委員）

國學院大學（監査委員）

成蹊学園（運営委員）

大東文化大学（運営委員）

中央大学（運営委員・事務局）

東海大学（運営委員）

東洋大学校友会（運営委員・会計委員）

日本大学（監査委員）

武藏野美術大学（運営委員・事務局）

明治大学（会長）

中村 青志（運営委員）

西山 伸（運営委員）

（西日本部会）

関西大学（部会長校）

関西学院（会報担当校）

甲南大学（監査校）

同志社（副部会長校）

広島大学（幹事校）

桃山学院（庶務校）

龍谷大学（会計校）

議題 (1)2007年度総会・全国研究会の運営
について

*大会運営につき、各役員の役割分担を「役員分担表」にもとづいて確認し、会場を設営した。

(2)2007年度の東西両部会の共同事業
について

*『研究叢書』第9号の編集担当を東日本部会とし、発刊につき総会の承認を得ることとした。

*協議会の統一的ホーム・ページ制作の件を審議し、本年度中の開設を決定、総会に報告することとした。なお、ホーム・ページの維持費については、開設年は各部会の会員校数比割で分担し、以降は両部会折半とすることを申し合わせた。

*西日本部会庶務校（桃山学院）より、次年度の「総会および全国研究会」を西日本部会主催とし、沖縄にて開催する予定であるとの報告があった。

(3)その他

*現在作成中のホーム・ページ雰形を総会会場にて公開し、広く意見を聞くことを申し合わせた。

*『研究叢書』投稿規定の件を審議し、両部会にて検討を続けることを申し合わせた。

全国大学史資料協議会 東日本部会幹事会議事録（抄）

第82回 2007年12月13日（木）13時～14時
会場 明治学院大学本館10階 大会議場
出席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學

成蹊学園 大東文化大学 中央大学

東海大学 東洋大学校友会

日本大学 武蔵野美術大学

明治大学 中村 青志

会長挨拶 鈴木 秀幸氏

（明治大学史資料センター）

議事 (1)2007年度の部会研究会について

*2008年1月の研究部会について審議し、事務局（中央大学）より、当初の予定が変更になったため、急遽、全国大会最終日（10月13日）に仮の幹事会を開き、青柳小百合氏（個人会員）に報告を依頼する事になった経緯が報告された。また、青柳氏が情報保存研究会の同志と共同で報告する研究会企画案が紹介された後、会長より、今日は会員である青柳氏と情報保存研究会の方々との共同報告であるため、改めて今までの本協議会の対応の経緯を踏まえて、幹事会の了承を得たいとの提案があり、審議の結果、原案通り承認された。

*2008年3月の研究会について、「大学史展」実行委員長である西山伸氏に代わり、担当の明治大学より、同展示をめぐる検討結果を会員諸氏に報告すると共に、より多くの大学の意向や希望を展示に反映させるため、3月の研究会にて研究発表をおこないたいとの提案があり、提案通り承認された。

(2)『研究叢書』第9号の編集および投稿規定の件について

*日本大学より『研究叢書』第9号の編集案が提案され、次回幹事会にて具体的な検討を行うこととした。

*あわせて、東西両幹事会の検討事項である投稿規定の件が審議されたが、『研究叢書』編集案とともに、継続審議となった。

(3)大学史資料協議会ホームページ作成の件

*神奈川大学より、前の全国大会で発表した協議会ホームページの試験運用を開始したいので、事前に東西幹事会限定公開して意見を聞きたいとの提案があり、了承された。

*東西幹事会役員へ仮ホームページのURLを通知し、あわせて、西日本部会へ資料提供を求ることを決定した。

(4)その他

*女子美術大学の協議会入会を2007年12月11日付けにて承認する。

*記念誌の編纂状況について、村松玄太主査（明治大学）より総頁数180頁程度になるとの報告があり、この試算に基づいて、来年度予算より出版費を計上することを承認した。

*次年度の部会総会を、設立20周年記念総会とし、設立日6月7日前後に開催する件が提案され、承認された。なお、上記記念誌を総会当日に配布することとし、総会運営の詳細については、次回幹事会にて検討することとした。

*会計校（東洋大学校友会）より、今年度全国大会の決算報告があり、審議の結果承認された。

*今年度全国大会の反省会を開催し、事務局（武藏野美術大学）より報告者・司会各位の意見や提案が報

告された。討論の結果、以下の3点が確認された。

(1)準備報告会は、当日の報告や討論を充実させるために必要である。

(2)準備報告会は、可能であるなら、当日の会場を利用して開催したほうが不測の事態を防ぐことができる。

(3)総会当日は、次年度全国大会の開催場所を発表する必要があるため、事前の検討・準備が不可欠である。

第83回 2008年1月24日(木) 13時～14時

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト room C

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊學園 大東文化大学 中央大学
東海大学 東洋大学校友会
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学 中村 青志 西山 伸

議 事 (1)2008年度の部会総会について
*本年6月開催予定の設立20周年記念総会について検討し、講演会・会場校報告・記念誌配布の主内容で開催・運営することとした。

*上記記念総会の開催を、会員各位に広報することとした。

(2)『研究叢書』第9号の編集および投稿規定の件について

*編集委員校（日本大学）より提出された編集案を検討し、同案を承認した。

*投稿規定について審議したが、『研究叢書』の基本的な性格を再検討すべきとの意見が大勢となり、継続審議となった。

*『研究叢書』第9号の発送方法について検討し、会報と同様に各会

員へ直送する方式を採用したい旨、
西日本部会へ提案することとした。

(3)大学史資料協議会ホームページ作成の件

*神奈川大学より、作業の進捗状況について報告があり、事前公開HPについて各幹事より以下の意見が出され、承認された。

- ・「これまでの活動」の「刊行物」のページは、研究叢書、各会報、『十年の歩み』の順とする。
- ・会員限定のデータは、幹事会の議事録と名簿のみにして、研究会の記録は公開した方がよい。
- ・『日本の大学アーカイブズ』のアフィリエイトは、京大出版会にかかる。
- ・ドメインは「<http://www.universityarchives.jp/>」が良い。
- ・ホームページ発足までの作業は、神奈川大学中心に進める。
- ・デザイナーへの支払いは、ホームページ発足後におこない、西日本部会との申し合わせに従って、会員校数の比率で分割する。なお、発足後の維持費は均等分割とする。
- ・西日本部会へ、再度データ提供をお願いする。

(4)その他

*記録管理学会より、最近の文書管理制度の動きに対応して、関連諸団体がまとまって意思表示したいとの提案があったため、同提案書を西日本部会に送付の上、全国大学史資料協議会としていかなる協力ができるか検討することとした。

*個人会員小川千代子氏より、記録

管理学会の活動に関する報告をしたいとの申し入れがあり、了承された。

**全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録（抄）**

名 称 全国大学史資料協議会2007年度全国研究会
(第57回東日本部会研究会)
テーマ 「創立期大学史資料の特色」
日 時 2007年10月12日(金)～13日(土)
会 場 10月12日(金) 成蹊学園本館大講堂
10月13日(土) 川崎市公文書館
出 席 <東日本部会>
愛知大学 青山学院 神奈川大学
慶應義塾 恵泉女子学園 皇學館
國學院大學 芝浦工業大学
自由学園 上智大学 成蹊学園
創価大学 拓殖大学 大東文化大学
中央大学 東海大学 東京経済大学
東京女子医科大学 東京農業大学
東北学院 東北大学
東洋英和女学院 東洋大学校友会
南山大学 日本体育大学 日本大学
北海道大学 武藏学園
武藏野美術大学 明治学院
明治大学
中村 青志（東京経済大学）
オブザーバー：
平井 孝典（小樽商科大学）
<西日本部会>
追手門学院大学 大阪大学
大谷大学 関西大学 関西学院
甲南大学 神戸女学院
西南学院大学 同志社大学
広島大学 桃山学院 龍谷大学
橋本 弘之（元立命館百年史編纂室）

原 登久雄（元桃山学院年史委員会）

* 東日本部会分

<機関>31校（48名）

<個人他>2名 <合計>50名

* 西日本部会分

<機関>12校（17名）

<個人他>2名 <合計>19名

開会挨拶 関西大学

熊 博毅氏

（全国大学史資料協議会会长校）

テーマの発題

中央大学

松崎 彰氏（東日本部会事務局）

* 概要*

今年度の統一テーマが、会員全員に関わる共通の問題を討議する目的で設定され、多様な事例を示すことによって、総括討論を充実させようとしたものであることを説明し、活発な発言を求めた。

報告① 山本 美穂子氏

（北海道大学大学文書館）

「札幌農学校簿書とその周辺」

* 概要*

北海道大学は、1876年に開拓使が設置した札幌農学校に始まり、1907年に東北帝国大学農科大学に昇格、1918年に北海道帝国大学に分離独立したという経緯をたどる。札幌農学校に関する公文書は「札幌農学校簿書」と呼ばれ、従来は附属図書館北方資料室が管理し、一般利用に供されてきたが、2007年8月、北海道大学大学文書館（2005年5月設立）に移管されることが決定した。

報告では、「札幌農学校簿書」をはじめとする大学沿革資料の概要を紹介するとともに、これまで大学沿

革史編纂の一次資料として制度史の視点から利用してきた「札幌農学校簿書」（公文書）と、遺族から寄贈された卒業生の受講ノートなどの個人資料（私文書）の両面からアプローチして、学業史の視点から札幌農学校史を新たに解明しようとしている大学文書館の活動が紹介された。

「札幌農学校簿書」には、入学願書、外出等の諸届、修学旅行報告文などの学生直筆の記録が数多く綴られており、学生生活にスポットを当てることができるが、そこに個人資料をつき合わせることにより、学生の学業生活の具体像がさらに明らかになる。従来、公文書に依拠した行政制度史に傾斜していた旧帝国大学史のなかでの新しい動きとして、北海道大学大学文書館の活動は大いに注目されるものである。（中村 青志）

報告② 池田 裕子氏

（関西学院学院史編纂室）

「関西学院創立初期の宣教師関係資料—北米での調査・資料収集からその活用まで—」

* 概要*

第2報告は、池田裕子氏（関西学院学院史編纂室）の「関西学院創立初期の宣教師関係資料—北米での調査・資料収集からその活用まで—」であった。アメリカ南メソヂスト監督教会の宣教師によって設立された関西学院は、その設立事情からカナダ・アメリカに資料（宣教師関係資料）がある。池田氏の報告は、その北米における資料調査・収集の状況と活用について、自身の経験や実演をまじえて軽妙な語り口で述べたも

のである。

報告の大きな柱は、①関西学院史資料の特徴である宣教師関係資料の紹介、②海外調査・資料収集に至る経緯と実際に行なった調査の概要およびその活用と成果、③上記調査の「経験から言えること」である。

①では、関西学院が宣教師によって創られたことを述べ、こうした宣教師にまつわる資料が関西学院史を綴る際に重要であるとした。そして、宣教師関係資料の収集にあたり、具体的にはどういったものが対象となるのかを解説した。②では、とくに関西学院第3代院長ニュートンの調査に至った経緯と、実際に「アメリカ南部とカナダ」で行なった調査の概要を紹介した。さらにその成果として、調査で目にしたニュートンの故郷のサウスカロライナ州旗が、関西学院の校章のモデルになっている興味深い可能性を指摘した。また、第4代院長ベーツの「カナダ東海岸」における調査では、『ベーツ日記』から院長辞任の真相の一端が明らかになったことを報告した。③では、こうした経験をふまえ、海外調査のノウハウ、実際に調査地を歩く重要性、好奇心を持って調査に赴くことを力説し、報告を終えた。

(齊藤 研也)

報告③ 大平 和典氏（皇學館史編纂室）
「皇學館大學の再興とその資料」

* 概要 *

皇學館大學は明治15年（1882）に「創立」、戦後の混乱と「廢学」を経て、昭和37年（1962）に「再興」という、大学として稀有な歴史を持つ。全体

テーマは「創立期大学史資料の特色」であるが、皇學館大學の報告では特殊な再興期とその資料に着眼。一、「皇學館の年史・記念誌」で刊行図書を紹介。次いで二、「廢学から再興に至る経緯」では、神宮皇學館創立から廢学、復興への過程と関係資料について詳述した。

戦後、GHQの神道指令により官立廃止。戦前期資料は神宮や国立大学に分割移管（後に一部返還）、廃棄された資料も多い。廃学直後から卒業生（館友）・神社界を中心に繰り返される復活、再興への試行錯誤。政財界の支援、社会の支持も加わり実現した苦難の皇學館大學再興。この再興に関する資料として、『館友』誌に動向が詳録され、関係者の経過報告や回想も多数ある。皇學館後援会に関する公文書は国立国会図書館つくば分館に所蔵（マイクロフィルム収集済）、一部は館史編纂室所蔵。その他、各種新聞報道・特集記事に見ることができる。（門平 浩司）

総括討論 司会

武藏野美術大学 石田 順二氏
神戸女学院 佐伯 裕加恵氏

* 概要 *

総括討論は、各個別報告への質疑応答から開始された。あらかじめ報告者ごとに色分けされた質問用紙を参加者に配布し、それを司会者がとりまとめる方式が採用され、その結果、各報告中の不明点や報告で取り上げた資料群に関する質問、資料保存機関としての課題や将来構想に関する質問等々、多岐にわたる質問が出された。これに対して、各報告者

による丁寧な応答がなされ、質疑応答は重複もなくスムーズに進行したが、想定外の質問数に時間を費やしてしまい、創立期大学史資料の基本的性格にかかわる論点を十分に議論することができなかった。そのため、司会より、次年度以降も大学史資料の基本的性格に関わるテーマを設定し、今年度の課題を引き継ぎたい旨の総括があり、討議を終了した。

*各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第9号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 明治大学

鈴木 秀幸氏

(全国大学史資料協議会副会長校)

見学会 川崎市公文書館

10月13日(土)は、川崎市公文書館に会場を移して見学会を開催した。明治大学鈴木秀幸氏(全国大学史資料協議会副会長校)の開会挨拶の後、川崎市公文書館の奥山隆司館長より、公文書館法制定(1988年)以前の1984年10月に開設された同館の性格や役割について紹介があり、あわせて情報公開制度にもとづく歴史的公文書の公開をめぐる考え方や諸課題について言及があった。つづいて、同館の吉田伸一課長補佐より、同公文書館の概要と機能について詳細な説明を受け、若干の質疑応答の後、同館を見学した。参加者は2班に分れ、吉田氏と並木和子嘱託の案内で、資料収蔵庫、閲覧室、展示スペースなどの施設を見学し、現状や問題点を説明していただいた。

同公文書館が直面している課題は、大学における資料保存・公開にも共

通する問題であり、その意味でも有意義な見学会であった。

川崎市公文書館の皆様に心から御礼申します。(松崎 彰)

第58回 2007年12月13日(木) 14時~17時

会 場 明治学院大学本館10階 大会議場

出 席 神奈川大学 慶應義塾 恵泉女学園

皇學館 國學院大學 国士館大学

自由学園 上智大学 女子美術大学

成蹊学園 専修大学 大東文化大学

中央大学 東海大学

東京基督教大学 東京経済大学

東京農業大学 東洋英和女学院

東洋大学校友会 日本体育大学

日本大学 法政大学 武藏学園

武藏野美術大学 明治学院

明治大学

東田 全義 青柳 小百合

秋山 俱子 中村 青志(以上42名)

会長挨拶 鈴木 秀幸氏

(明治大学史資料センター)

挨 拶 久山 道彦氏

(明治学院歴史資料館長)

報 告 原 豊氏

(明治学院歴史資料館)

「明治学院の歴史・明治学院歴史資料館の沿革と活動」

見 学 明治学院歴史資料館・資料館倉庫等

概 要 明治学院歴史資料館の原豊氏から明治学院大学のあゆみと明治学院大学歴史資料館の変遷と現状について次のような報告があった。

明治学院では長らく1877年、築地居留地に東京一致神学校が設立されたことを創立年としていたが、2000年に、ヘボン先生が塾を創立した1863年を創立年とすることとし、

2013年に創立150周年を迎える。明治学院歴史資料館は、1965年『明治学院九十年史』の編纂活動にはじまり、1972年より広報室・資料室、広報室、広報室史料室、図書館図書課史料室と部署名を変えつつ、『井深梶之助とその時代（1～3巻）』『明治学院百年史資料集』『明治学院百年史』『明治学院史資料集』『明治学院の現況一創立110周年記念誌』『真理と自由を求めて—明治学院120年のあゆみ—』等を発行してきた。そして1877年の東京一致神学校を起点とした創立120周年を期して1998年、「明治学院歴史資料館」を開館した。

資料館は現在館長1名と専任職員1名、特別契約職員1名の合計3名で運営している。図書・雑誌以外の資料の収集を主とし、常設展示および企画展示を行っている。その他に2名の研究員による資料研究、研究成果および目録等が公刊されている。2007年度事業では上記研究・調査活動に加えて展示会、講演会の実施およびレファレンス活動について紹介があり、資料館の精力的な活動が伺えた。また、明治学院大学で実施されている自校史教育講座の講師や、明治学院高校社会科の授業で実施されている「明治学院史」では高校生の来館受入、レポートのチェックなどをを行い、自校史教育の一翼を担っていることが報告された。

質疑応答では、創立年が変わったことで創立記念日も変わったのか、また1877年について創立年に変る名称をつけたのかという質問に対し、新しく決めた創立年が1863年9月という

想定以外日付の確定ができないため、創立記念日は以前どおり11月1日であると回答があった。その後、原氏および野田氏の案内のとも資料館内を見学した。

最後に、研究会開催にご尽力くださった明治学院歴史資料館の皆様に、末筆ながら御礼申し上げます。

(市村 麻衣)

第59回 2008年1月24日(木)14時～17時30分
 会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト
 roomA・B
 出 席 青山学院 神奈川大学 関東学院
 慶應義塾 國學院大學 自由学園
 女子美術大学 成蹊学園 専修大学
 大東文化大学 中央大学 東海大学
 東京経済大学 東京農業大学
 東北大学 東洋英和女学院
 東洋大学校友会 日本体育大学
 日本大学 武蔵野美術大学
 明治大学
 東田 全義 青柳 小百合
 中村 青志 西山 伸 吉川 隆博

(以上37名)

会長挨拶 鈴木 秀幸氏
 (明治大学史資料センター)
 報 告 統一テーマ『大学史資料の保存と活用—調査から対策まで—』
 ①挨拶 青柳 小百合氏
 ②木部 徹氏「資料群（コレクション）としての状態調査から対策へ」
 ③神谷 修治氏「紙資料の劣化と中性紙、保存箱」
 ④岡田 泰吉氏「写真資料の保存方法、活用方法」
 ⑤青柳 小百合氏「紙資料の媒体変換、マイクロフィルム化・デジタ

ル化」

⑥木部 徹氏「紙媒体記録資料の修復技術」

⑦質疑応答・フリートーク

概 要 「大学史資料の保存と活用－調査から対策まで－」というテーマのもと、研究会が行われた。講演者は、青柳小百合氏（株式会社ニチマイ・東日本会員）、岡田泰吉氏（株式会社コスマスインターナショナル）、神谷修治氏（特種紙商事株式会社）、木部徹氏（有限会社資料保存器材）の方々である。

まず、青柳氏から、今回のテーマ「大学史資料の保存と活用－調査から対策まで－」の趣旨が語られた。木部氏からは、「資料群（コレクション）としての状態調査から対策へ」として、資料を単体ではなくコレクションとして見たときどう扱うのが適当であるか、といったお話をいただいた。主に紙媒体の資料を扱っていくにあたって、劣化の原因や症状を探ることはもちろん大切であるが、予防的対策を行うことが何より基本である。また、劣化調査には、400点サンプリング調査法と悉皆調査法があること、その結果から目的に合わせた保存計画・対策（防ぐ・代替する・直す）を立てていくことが大切であるとのことであった。

神谷氏からは、「紙資料の劣化と中性紙、保存箱」として、紙（酸性紙）の性質及び資料保存用に使われる中性紙の性質についてお話をいただいた。紙の劣化原因を内的か外的に区分して理解し、それぞれの原因から守り環境を整えていくこと、

資料に応じた「環境制御」が必要であるとのことであった。

岡田氏からは、「写真資料の保存方法、活用方法」として、写真の性質から見た劣化原因及び対策・保存方法についてお話をいただいた。写真資料は必ず劣化してしまうものなので、目的に応じた保存レベルを認識しておくべきことを教えていただいた。

青柳氏からは、「紙資料の媒体変換、マイクロフィルム化・デジタル化」として、資料を代替する、取替え技術についてお話をいただいた。マイクロフィルム化とデジタル化のそれぞれの特質と利点と欠点から、資料に応じた方法を選択すべきとのことであった。

最後に、再び木部氏から「紙媒体記録資料の修復技術」として、紙を洗う、脱酸性化処理、抗酸化処理、リーフキャスティング、エンキャブシュレーションという5つの資料保存方法について、その基本的な目的から現在の先端技術までを教えていただいた。

質疑応答では、脱酸法について、写真保存方法について、エンキャブシュレーション技術について、収納方法について、浸水した資料の対策について、資料保存全体について相談に乗ってもらえる団体はあるか、といったように、各自の状況や課題に基づき活発な議論がなされた。

(浅沼 薫奈)

全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿
 (2007年12月11日現在)

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義

【機関会員】 担当部課室／住所・電話他

1 愛知大学 豊橋研究支援課

〒441-8522 豊橋市町畠町1-1

電話:0532-47-4111

FAX :0532-47-4132

URL :<http://www.aichi-u.ac.jp>

2 青山学院 資料センター

〒229-8558 相模原市淵野辺5-10-1

青山学院大学N棟403

電話:03-3409-6742

FAX :03-3409-8134

URL :<http://www.aoyamagakuin.jp/mcenter/>

3 学習院 学習院院史資料室（休会扱い）

〒171-8588 豊島区目白1-5-1

電話:03-3986-0221

FAX :03-5992-1068

4 神奈川大学 大学資料編纂室

(運営委員)

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

電話:045-481-5661

FAX :045-491-7915

URL :<http://archives.kanagawa-u.ac.jp/>

5 関東学院 学院史資料室

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

電話:045-786-7066

FAX :045-786-2932

URL :<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>

6 慶應義塾 福澤研究センター

(副部会長・会計委員)

〒108-8345 港区三田2-15-45

電話:03-5427-1604

FAX :03-5427-1605

URL :<http://www.fmc.keio.ac.jp>

7 恵泉女子学園 史料室

〒156-0055 世田谷区船橋5-8-1

電話/FAX :03-3303-6920

8 皇學館 館史編纂室

〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704

電話:0596-22-6817

9 國學院大學

学術メディアセンター事務部

研究開発推進機構事務課

校史資料担当

(監査委員)

〒150-8440 渋谷区東4-10-28

電話:03-5466-0104

URL :<http://www.kokugakuin.ac.jp>

10 国際基督教大学 図書館大学史資料室

〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2

電話:0422-33-3306, 3308

FAX :0422-33-3305

11 国士館 理事長室広報課年史編纂室

〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1

電話:03-3418-2691

FAX :03-3418-2694

URL :<http://www.kokushikan.ac.jp>

12 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室

〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1

電話:03-3418-9614

FAX :03-3418-9611

URL :<http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka>

13 実践女子学園 総務部

〒191-8510 日野市大坂上4-1-1

電話:042-585-8800

FAX :042-585-8808

14 芝浦工業大学 広報課80周年史編纂担当

〒135-8548 江東区豊洲3-7-5

電話:03-5859-7070

FAX :03-5859-7071

	URL : http://www.shibaura-it.ac.jp	23 拓殖大学 創立百年史編纂室 〒112-8585 文京区小日向3-4-14 電話:03-3947-7140 FAX :03-3947-7294
15 自由学園 自由学園資料室	〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15 電話:042-422-3111 (内) 217 FAX :042-422-1078	24 玉川大学 教育博物館 〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1 電話:042-739-8656 FAX :042-739-8654 URL : http://www.tamagawa.jp/research/museum/
16 上智大学 総合調整室別室	〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1 電話:03-3238-3294 FAX :03-3238-3539	25 多摩美術大学 大学史編纂室 〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34 電話:03-3702-1168 FAX :03-3702-9416
17 女子美術大学 歴史資料室	〒228-8538 相模原市麻溝台1900 電話/FAX :042-778-6754	26 大東文化大学 大東文化歴史資料館 (大東アーカイブス) (運営委員) 〒175-0083 板橋区徳丸2-19-10 電話:03-5399-7646 FAX :03-5399-7647 URL : http://www2.daito.ac.jp
18 聖学院 本部理事長室	〒114-8574 北区中里3-12-2 電話:03-3917-8332 FAX :03-3940-3798	27 千葉商科大学 総務課史料編纂担当 〒272-8512 市川市国府台1-3-1 電話:047-372-4111 FAX :047-373-4283
19 成蹊学園 史料館 (運営委員)	〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話:0422-37-3994 FAX :0422-37-3704 URL : http://www.seikei.ac.jp	28 中央大学 大学史編纂課 (運営委員・事務局) 〒192-0393 八王子市東中野742-1 電話:0426-74-2132 (直) FAX :0426-74-2203
20 成城学園 教育研究所	〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20 電話:03-3482-1484 FAX :03-3482-5272 URL : http://www.seijogakuen.ed.jp/	29 津田塾大学 津田梅子資料室 〒187-8577 小平市津田町2-1-1 電話:042-342-5219 FAX :042-342-5249
21 専修大学 総務部大学史資料課	〒101-8425 千代田区神田神保町3-8 電話:03-3265-5879 FAX :03-3265-5923	30 東海大学 学園史資料センター (運営委員) 〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館 2 F
22 創価大学 創価教育研究所	〒192-8577 八王子市丹木町1-236 電話:042-691-5623 FAX :042-691-5654 URL : http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/	

電話:0463-50-2450	URL : http://www.tohoku-gakuin.ac.jp
FAX :0463-50-2449	
31 東京基督教大学 歴史資料保存委員会 〒270-1347 印西市内野3-301-5-1 電話:0476-46-1131 FAX :0476-46-1405 URL : http://www.tci.ac.jp/index.html	38 東北大学 史料館 百年史編纂室 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 電話:022-217-5040 (史料館) 022-217-5042 (百年史) FAX :022-217-4998 URL :史料館 http://www.archives.tohoku.ac.jp
32 東京経済大学 秘書課 〒185-8502 国分寺市南町1-7-34 電話:042-328-7955 FAX :042-328-5900 URL : http://www.tku.ac.jp	URL :百年史 http://www.archives.tohoku.ac.jp/hensan/
33 東京女子医科大学 史料室・吉岡彌生記念室 〒162-8666 新宿区河田町8-1 電話:03-3353-8111 (内22213) FAX :03-3353-8209 URL : http://www.twmu.ac.jp/U/facilities/f06yayoi.html	39 東洋英和女学院 史料室 〒106-8507 港区六本木5-14-40 電話:03-3583-3325 (代) FAX :03-3583-3329 (直) URL : http://www.toyoeiwa.ac.jp
34 東京女子大学 大学運営部総務課大学資料室 〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1 電話:03-5382-6294 (直通) FAX :03-3395-1037 URL : http://office.twcu.ac.jp/general-affairs/archives	40 東洋大学 井上円了記念学術センター 〒112-8606 文京区白山5-28-20 電話:03-3945-7555 FAX :03-3945-7601 URL : http://www.toyo.ac.jp/enryo/
35 東京電機大学 創立100周年記念事業推進本部 〒101-8457 千代田区神田錦町2-2 電話:03-5280-3723 FAX :03-5280-3740 URL : http://www.dendai.ac.jp/general-affairs/archives	41 東洋大学校友会 (運営委員・会計委員) 〒113-0021 文京区本駒込1-10-2 甫水会館内 電話:03-3946-9111 FAX :03-3946-6311 URL : http://www.toyo.ac.jp/koyukai
36 東京農業大学 図書館 〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1 電話:03-5477-2525 FAX :03-5477-2639	42 獨協学園 資料センター 〒340-0042 草加市学園町1-1 電話:048-946-2800 FAX :048-942-4312 URL : http://www.dac.ac.jp
37 東北学院 庶務部広報課 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1 電話:022-264-6423 (代表) FAX :022-264-6478	43 名古屋大学 大学文書資料室 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 電話:052-789-2046 FAX :052-788-6222

	URL : http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp	50 北海道大学 大学文書館 〒060-0808 札幌市北区北8西5 北海道大学附属図書館内 (4階) 電話/FAX:011-706-2395 (内線2395) URL : http://www.hokudai.ac.jp/
44 南山大学 史料室	〒466-8673 名古屋市昭和区 山里町18番地 電話:052-832-3111 (内3120・3121) FAX :052-833-6985	
45 日本工業大学 総務課	〒345-8501 埼玉県南埼玉郡 宮代町学園台4-1 電話:0480-34-4111 (代) FAX :0480-34-2941	51 宮城学院 資料室 〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1 電話:022-279-7765 FAX :022-279-4707 URL : http://www.mgu.ac.jp
46 日本女子大学 成瀬記念館	〒112-8681 文京区目白台2-8-1 電話:03-5981-3376 FAX :03-5981-3378 URL : http://www.jwu.ac.jp/	52 武蔵学園 記念室法人総務課 〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1 電話:03-5984-3748 FAX :03-5984-3848 URL : http://www.musashi.jp/archives
47 日本体育大学 図書館	〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 電話:03-5706-0907 FAX :03-5706-0913	53 武蔵野美術大学 大学史史料室 (運営委員・事務局) 〒187-8505 小平市小川町1-736 電話:042-342-6091 FAX :042-342-9547 URL : http://www.musabi.ac.jp/history
48 日本大学 総務部大学史編纂課	日本大学資料館(仮称)設置 準備室 (監査委員) 〒102-8251 千代田区五番町12-5 (編纂課) 〒102-8275 千代田区九段南4-8-24 (準備室) 電話:03-5275-9628 (編纂課) 03-5275-8336 (準備室) FAX :03-5275-8325 (編纂課) :03-5275-9410 (準備室) URL : http://www.nihon-u.ac.jp	54 明海大学 浦安キャンパス メディアセンター(図書館) 〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目 電話:047-350-4997 FAX :047-355-7992 URL : http://opac.meikai.ac.jp/
49 法政大学 図書館事務部総務課大学史担当	〒102-8160 千代田区富士見2-14-17 電話:03-5212-4108 FAX :03-5212-4109 URL : http://www.hosei.ac.jp/	55 明治学院 歴史資料館 〒108-8636 港区白金台1-2-37 電話:03-5421-5170 56 明治大学 大学史資料センター (部会長) 〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1 電話:03-3296-4085・4329 FAX :03-3296-4086 URL : http://www.meiji.ac.jp/history/

- 57 立教女学院 学院資料室
 〒168-8616 東京都杉並区
 久我山4-29-60
 電話:03-3334-5105
 FAX :03-3334-8393
 URL :<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo/>
- 58 立教大学 立教学院史資料センター
 〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
 電話/FAX :03-3985-2790
- 59 立正大学 総務部総務課
 〒141-8602 品川区大崎4-2-16
 電話:03-3492-2681
 FAX :03-5487-3338
 URL :<http://www.ris.ac.jp>
- 60 早稲田大学 大学史資料センター
 〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1
 電話:03-5286-1814
 FAX :03-5286-1815
 URL :<http://www.waseda.jp/archives/>

【個人会員】

- 1 青柳小百合 ((株)ニチマイ)
- 2 秋山 俱子 (元日本女子大学成瀬記念館)
- 3 安藤 正人
 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構
 国文学研究資料館アーカイブズ研究系)
- 4 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
- 5 伊藤 純郎
 (筑波大学大学院人文社会科学研究科)
- 6 上田 敏代
 (東京女学館中学校・高等学校)
- 7 内山 宏
 (日本図書館協会・日仏図書館情報学会・
 経済資料協議会)
- 8 大沢 泉 (八戸大学商学部)
- 9 小川千代子 (国際資料研究所)
- 10 神谷 智 (愛知大学文学部)

- 11 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)
- 12 桑尾光太郎
- 13 坂口 貴弘 (慶應義塾大学(院))
- 14 谷本 宗生 (東京大学史史料室)
- 15 寺崎 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
- 16 中村 青志 (運営委員・東京経済大学)
- 17 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
- 18 中村 賴道 (企業史料協議会)
- 19 西山 伸
 (運営委員・京都大学大学文書館)
- 20 日露野好章
 (東海大学課程資格教育センター博物館学)
- 21 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
- 22 古郡 信幸 (清泉女子大学)
- 23 細井 守
- 24 吉川 隆博

ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505
 東京都小平市小川町1-736
 ☎ 042-342-6091

【中央大学・大学史編纂課】

〒192-0393
 八王子市東中野742-1
 ☎ 0426-74-2132

会報編集**【神奈川大学・大学資料編纂室】**

〒221-8686
 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 ☎ 045-481-5661